



愛隣幼稚園.....

園だより

.....19. 12月

“あなたは大事”という確信

9月からの3ヶ月、愛隣は本当に賑やかでした。おうちの方たちの活動が活発で、毎週のように様々なことが企画され、忙しい毎日を送られた方も多かったと思います。どの活動もボランティアですから報酬はありません。でも賃金という報酬はなくても、仲間とともに進めたプロジェクトに、手応えや満足という報酬を受け取っていらっしゃるのではないのでしょうか。子どもたちと同じ空間と時間を共有しながら、親たちも子と同じように幼稚園生活を存分に楽しむ、これは贅沢なことです。お金を払ってもこの時間と同志を得ることは出来ません。子育てだけでない充実した時間。本音を語り合える同志。どちらも子育てを楽しくやっていくために必要不可欠です。

さて、10月から幼児教育の無償化が始まりました。幼稚園では2歳保育、満3歳保育を行う幼稚園がどんどん増えています。こちらは働かなくても未就園の子どもを預けることができるので、保育園とは少し違う理由で子どもを預ける方が増えているようです。2～3歳の子どもたち、そうです、手強い彼らです。まともにつきあうとヘトヘトになります。それで子育てが辛くなったりします。少し楽になりたい気持ち、よくわかります。私もヘトヘトでした。その頃どうやって子どもたち（年子だったので）とお風呂に入っていたかを思い出すたび、『あれは神業だった！』と自分に感心します。でもヘトヘトになる1番の理由はこれです。繰り返される途方もなく自己チューな主張、理不尽な行いは当たり前、にも関わらず甘えてくるという、モンスターのような我が子との攻防、これが1番です。なぜそうなるのか。子どもには生まれてからしばらくの間（おそらく幼児期が終わるころまで）、身近な養育者（母親が主になることが多いでしょうか）が自分の安心基地であるかどうかということが、その生存に関わって重大な問題です。実際、新生児期には身近な養育者の丁寧な関わりがなければ、生命を維持することも不可能です。子は泣くことで不快を知らせ、無意識のうちにその笑みで心地よさを伝え、養育者の愛情を引き出そうとします。繰り返されるやり取りを通して、子は自分の命を守り愛情を注いでくれる対象を安心基地と認識していきます。そうこうするうちに、子は探索を始めます。周囲の様々なものに興味をもち、未知のものと関わろうとします。ドキドキするのに関わっては安心基地に戻ってきます。「大丈夫。」と安心をもらい、また出かけていきます。行動範囲が広がると、安心基地がよかれと思って広げるガードは疎ましくなってきます。自立が始まります。ここからがやっかいな2～3歳の頃です。1人前の顔をしています、実は自信がありません。彼らが安心基地と思っている養育者から「大丈夫、見てるよ。」と言ってもらわないと、本当はひとりではまだまだ不安なのです。それでも強がって悪態をついて、いろいろやらせてくれます。養育する者にも我慢の限界があるのに、こちらの気持ちにはお構いなしに安心基地に帰ってきます。「大丈夫、大好きだよ。」「いつでもここに帰っておいで。」と言ってもらえることを確かめに帰ってくるのです。そうやって子は心の中に養育者の愛を貯めていきます。心から信頼し安心基地がなくならないことを確信できてはじめて、子は大海に漕ぎ出していきます。ですからこの時期に、子の心の中に養育者からもらう愛が満タンにならず、揺るがない安心基地の確認ができなければ、この厄介な攻防は延々と続いていくのです。私がその経験者です。養育する者にとっては苦しい時ですが、そんな幼児期こそが踏ん張りどころです。そんなことしなくても私はあなたのことを愛しているし、居なくなったりしないのに、と思います。子は確信を得たいのです。だから何度も何度も確かめるのです。「許してくれる？それでも私のこと、大事って言うってくれる？」・・・親になるってえらいことです。

クリスマス。神様は御子イエス様をこの世に贈ってくださいました。「こんな私でも大丈夫ですか？それでも私のこと、大事って言うてくれますか？」確信が欲しい私たちに「どんなあなたも愛しています。どんな時もあなたと一緒にです。」そのしるしとして御子イエス様はお生まれになったのです。